

あやめ池通信

～やさしい笑顔があふれ、一人一人が輝く学校～

第 63 号

令和元年 9月19日
奈良市立あやめ池小学校
文責 西浦克博

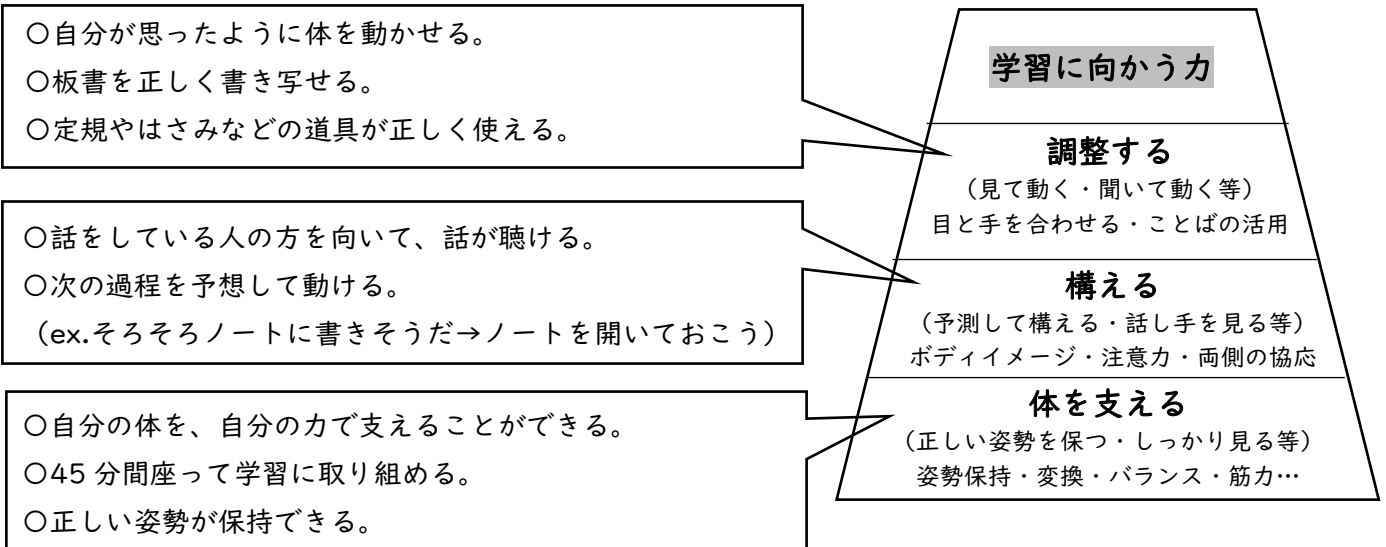
2学期がスタートして3週間あまりが過ぎました。子どもたちは、何事にも『本気』を出して毎日がんばろうとしてくれています。

さて、今回のあやめ池通信では、夏季休業中に参加した名古屋ビジョントレーニング研修会での、**中尾繁樹先生**（関西国際大学）による『不器用な子供のからだづくり・こころほぐし～ビジョントレーニングと感覚運動指導のつながり～』の講演の内容をご紹介します。



中尾先生は、「最近の子どもたちを見ていると、『姿勢がすぐに崩れてしまう』『休み時間からの切り替えができてにくい』『人の話が最後まで聞けない』『平仮名や漢字がうまく書けない』など、学習や規律に関する問題も見られるようになってきています。そして、小学校に入学して学習に前向きに取り組むためには、自分の体を支えたり、話を聞くために構えたり、見て聞いて動いたりできる力が土台となります。」と話されました。（下図）

<学習に向かうために必要な体の力>



また、「そのため、乳幼児期から、よく見て、よく聞いて、体を動かす遊びを通し多様な動きを経験し、基本的な感覚を身につけることが大切です。しかし、現代の子どもたちは乳幼児期から便利なものが増え、体の軸を作る遊びが減少傾向にあり、学習に向かうことができる体が育ちにくくなっています。小学生も塾や習い事で帰宅時間が遅いことやテレビやゲームの影響などから全体的な運動量が減っていて、学習の土台となる力ができないまま、学習に対する自信をなくしていく子どもたちも少なくありません。」とお話を続けられました。

そして中尾先生からは、小学校ではまず、

◎読み書きと学習規律の基盤となる体づくりをめざし、基本的な感覚（見る、聞く、触れる）を高めていくこと

◎学校生活全般を通して体を意識して動かしたくなるような仕掛けを工夫し、繰り返し体を動かす経験を重ねて体幹を安定させることが必要になってくると教えていただきました。

また、中尾先生は『からだ・ころほぐしの運動』を毎日の生活の中に取り入れることをすすめています。『からだ・ころほぐしの運動』とは、いろいろな手軽な運動や律動的な運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことによって、自分やなかまの体や心の状態に気づき、体の調子を整えたり、仲間と豊かに交流したりする運動です。学校の朝の会や体育の時間、またご家庭で、毎日5分間でも取り組んでいくことで、学習に向かうことができる体を作っていけるそうです。学校でも体育の時間の最初に取り入れています。

中尾先生がすすめる『からだ・ころほぐしの運動』は、改めてあやめ池通信でご紹介します。

【学年作品展を楽しむ2年生】



ひまわり運動・ベルマーク運動へのご協力ありがとうございます。

毎週水曜日の『ひまわり運動』（PTA古紙回収事業）、そして毎月一日の『ベルマーク運動』にご協力いただきましてありがとうございます。毎年のように学校予算が削減される中、子どもたちのために購入したいものも十分購入できない状況があります。そんな中、保護者の皆さんが取り組んでくださっている2つの事業は、本当にありがたい活動となっています。昨年からは、企画委員会の子どもたちが、『ひまわり運動』で集まった紙パックの種類分け（テトラパックをベルマークとして回収するため）を行って来てくれました。そして2学期からは、毎月の『ベルマーク運動』での種分け作業のお手伝いもしていただけることになりました。9月の活動では、多くの子どもたちが自分でベルマークの種分けを行い、企画委員会の子どもたちは1・2年生の子どもたちのサポートをしてくれました。自分たちのために取り組まれている2つの運動を手伝うことで、子どもたちの自己肯定感も伸ばせればと思います。

